

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	港
学 校 名	市岡小学校
学校長名	武中 大輔

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・市岡学校では、第6学年 60名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

各教科の平均正答率について、国語科、算数科、及び理科において大阪市平均及び全国平均から10ポイント程度下回った。平均無解答率について、その割合は大阪市平均及び全国平均を上回る結果となった。

児童質問紙について、「PCやタブレット等、ICT機器の使用」に関する項目は概ね大阪市平均及び全国平均を上回る結果となった。また、「自分に良いところがあるか」や「いじめ」に関する内容等、自己有用感を問う内容や道徳的な内容に関する項目も概ね大阪市平均及び全国平均を上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

すべての領域において大阪市平均及び全国平均を下回る結果となった。文章の構成の工夫を説明したものを選択する問題については、大阪市平均及び全国平均を大きく上回った。記述式や短答式問題について、無答の割合が高い傾向にある。

〔算数〕

すべての領域において大阪市平均及び全国平均を下回る結果となった。評価の観点別にみると、思考・判断・表現を問う問題について課題がみられ、知識・技能を問う問題については、やや課題がみられる。

〔理科〕

すべての領域において大阪市平均及び全国平均を下回る結果となった。問題形式でみると、記述式について正答率が高く、電気の回路について問う問題について大阪市平均を上回る結果となった。

質問調査より

「ICT機器の使用」に関する項目について肯定的な回答が多い結果となったのは、教職員校内研修などを通してICT機器の活用を積極的に促してきた結果であると考えられる。また、「自分に良いところがあるか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになるか」等について肯定的な回答が多い結果となったのは、教職員が保護者や地域と連携しながら、児童に対し丁寧に向き合うことを心がけた成果が表れているものと考ええる。

一方で、学級の児童同士が「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりする」経験が不足していると言える。

今後の取組(アクションプラン)

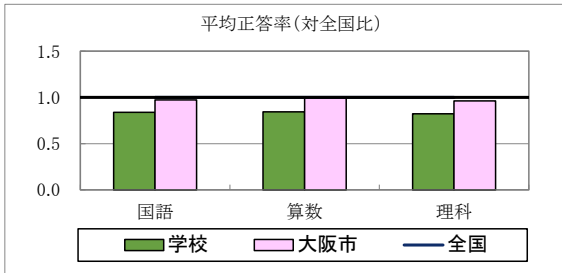
本校の研究課題として、今年度より「話し合い活動が活発になる社会科授業づくり」をテーマに取組を進めている。スクールアドバイザーの助言も受けながら、他者と協働的な学びを重ねる中で児童が主体的に学びを進められるような授業改善に取り組んでいる。今後は、本研究テーマを追求するとともに、各授業者が授業で掴ませたい内容を明確にし児童と共有することで、各教科における基礎的基本的な内容の習得に向けた取組も進めていく。

また、今年度より取組を本格化させた「異学年交流」をより活発にすることで、児童の自尊感情を高めるとともに他者を尊重する気持ちも育てていくようにする。

【 全体の概要 】

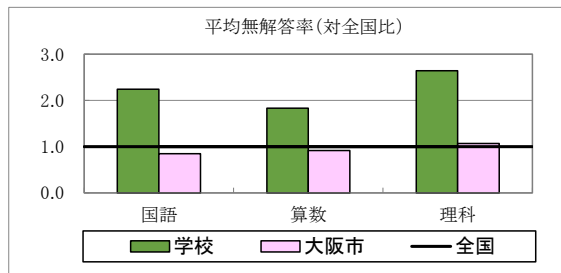
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	56	49	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	7.4	6.6	7.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



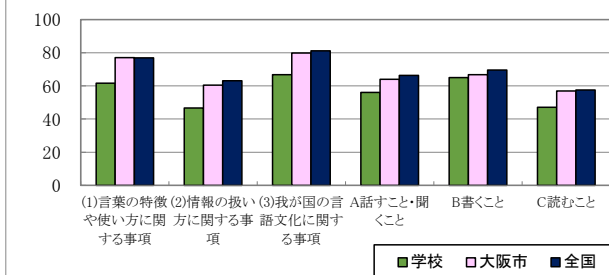
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	61.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	46.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	66.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	56.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	47.1	56.9	57.5

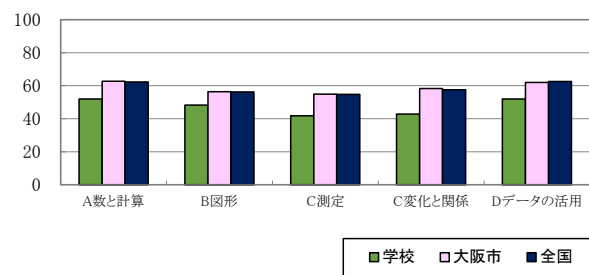
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	51.9	62.7	62.3
B 図形	4	48.3	56.4	56.2
C 測定	2	41.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	42.8	58.2	57.5
D データの活用	5	52.0	61.9	62.6

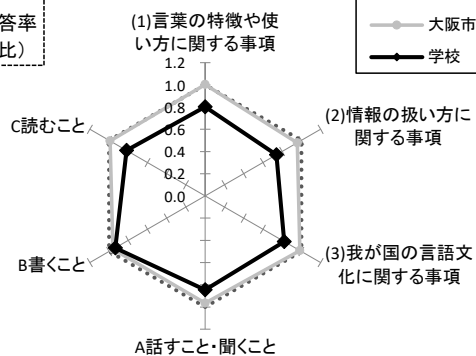
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



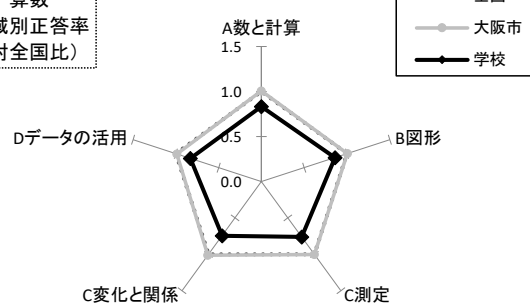
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

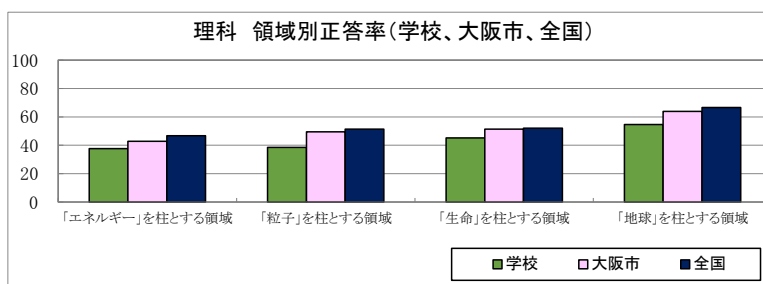


算数
領域別正答率
(対全国比)

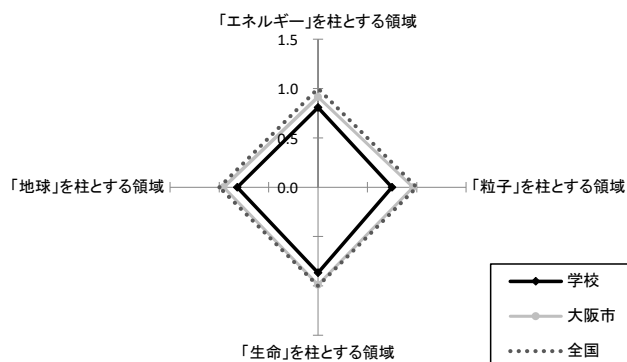


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	37.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	38.5	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	45.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	54.6	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

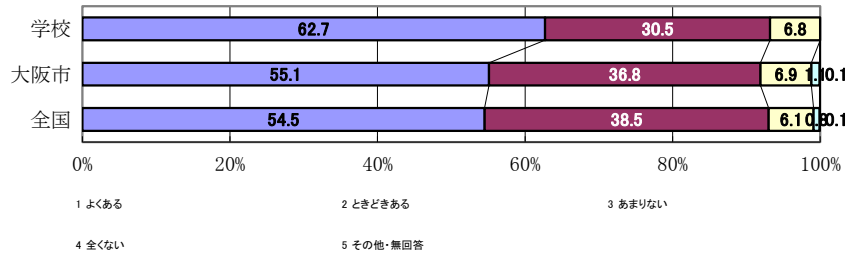
質問番号

質問事項

15

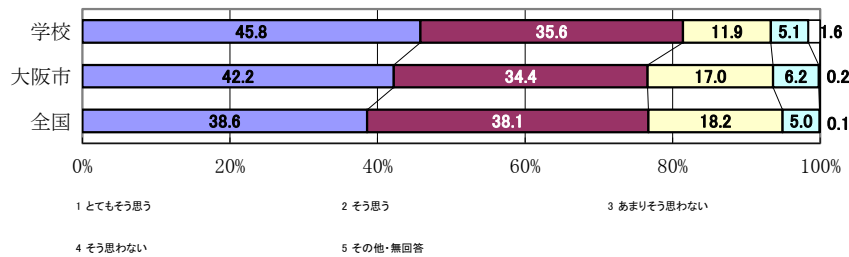
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

1 2 3 4 5 6 7 8



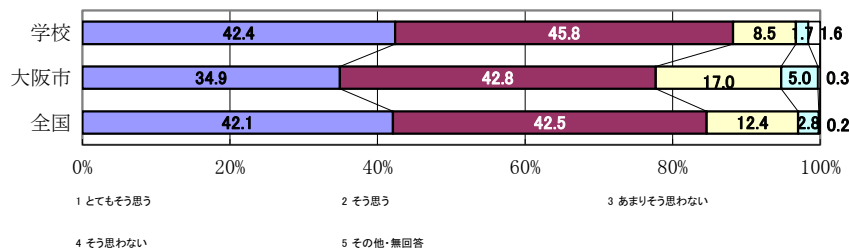
75

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか



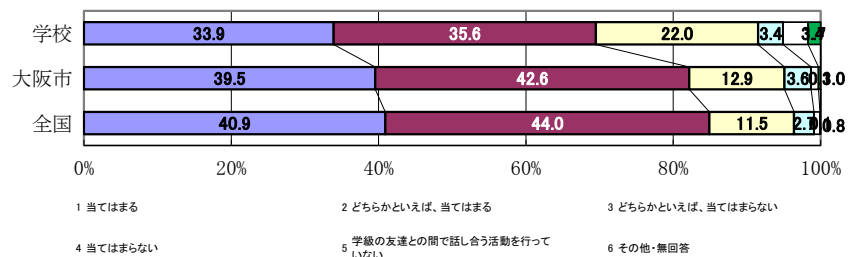
81

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



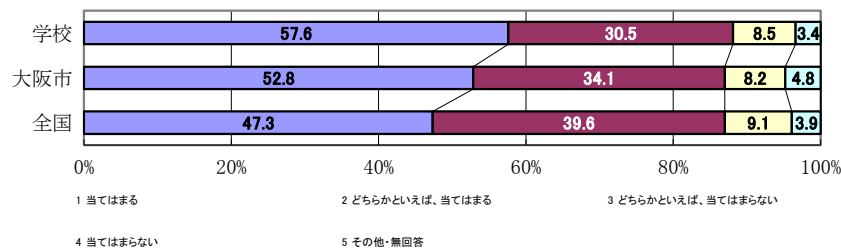
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



5

自分には、よいところがあると思いますか



学校質問より

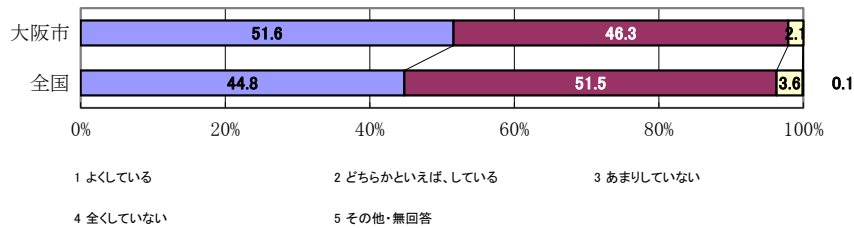
質問番号

質問事項

17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

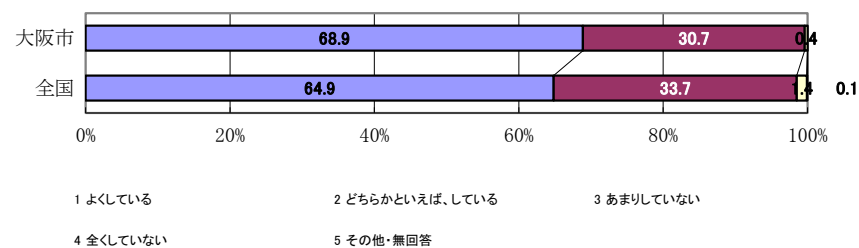
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

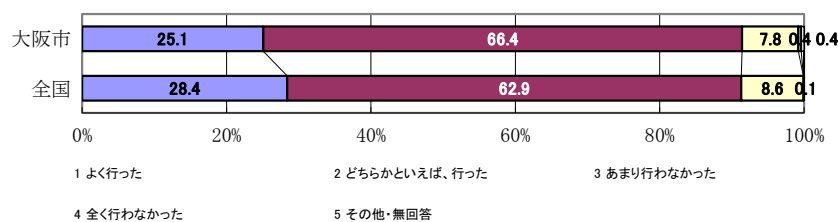
学校 「よくしている」を選択



45

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

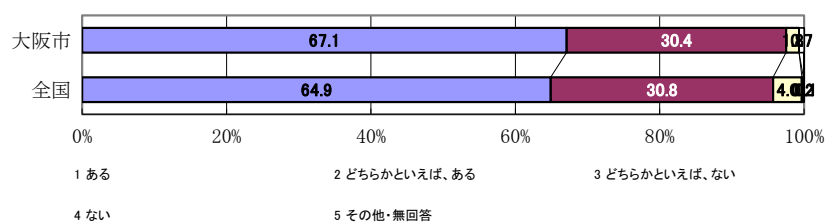
学校 「よく行った」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択



61

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択

